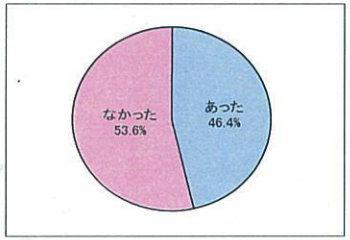
③社会関係の貧困の帰結

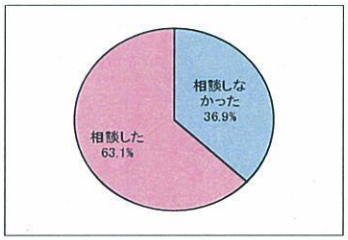
セーフティネット情報や助け合いネットへのアクセス低下

・相談したいことはあっても、相談していない
→相談する人も機関もない／相談しても無駄

相談したいことがあったか



実際に相談したか



（北九州市立大学　稲月正教授調査）[17]

伴走的トータルコーディネート

・本人と社会的資源との連携
・社会にない働きは、新たに創りだす

新しい社会的セーフティーネット

従来 ⇒雇用保険（ハローワーク）
⇒生活保護（最後のセーフティーネット）

最近の議論⇒第二のセーフティーネット

⇒就職安定資金融資　⇒住宅扶助
⇒総合支援資金貸付　⇒臨時特例つなぎ資金貸付
⇒訓練生活支援給付　⇒就職活動困難者支援事業
⇒長期失業者支援事業

※しかし、すべて受け皿
⇒本当に活用できるのか？

第一・第二のセーフティーネット
⇒これらの受け皿をいかにして活用できるか

持続性のある伴走的コーディネート

困窮者の沈黙⇒申請主義の超克

従来「つなぐ」と言われた福祉の実態
⇒「投げ渡し」に過ぎないのでは

従来の家族の役割
⇒つなぎ・もどし・次へつなぐの連続性
※受け皿チェック　段階的支援

しかし……家族的枠組みの崩壊の時代